

歓喜!! 涙の!!! Aリーグ 大接戦制し、4年ぶりに復帰



プレッシャーと戦い続けた3年間

2017年(平成29年) 大阪体育大学機関紙 編集者 中村 優志 大阪府泉南郡熊取町明台1-1 電話 (072)-453-8904

関西大学ラグビー Aリーグ入れ替え戦 12月10日 宝が池公園球技場 VS 摂南大

「本当に3年間長かった」と中谷監督は目を真っ赤にしながらプレッシャーと戦い続けた3年間を振り返った。大体大ラグビー部は、一時期全国でもその名を轟かせたヘラクレス軍団で有名である。周囲は勝つことが当たり前と思う中で、3年前の降格、昇格できない日々は部員だけではなく、ラグビーに関わる全ての人が苦しんだに違いない。主将の松坂泰作(体育4年)も「個人的になりませんが、1年生の時にBリーグに降格して、Aリーグに昇格させることが、自分達の学年の責任としてずっと背負ってきた。最後はみんなで乗り越えられて良かった」と涙ながらに、3年間の思いの丈を打ち明けた。

「最後の世代の責任感と一体感」 責任感を感じていたのは、主将だけではなかった。「4年生がBリーグ降格させてしまった最後の世代」ということを感じて、後輩たちにもう一度Aリーグでやらせてあげたいという思いが強かったと思う。今日の試合は4年生も多く出場し、その気持ちが強くなった試合だった」と中谷監督が試合を振り返ったように、出場する4年生のプレッシャーに背負っているもの大きさを感じた。

特別な1年間と新たな歴史の始まり ラグビー部は、昨年の悪夢の入れ替え戦から1年間、短期計画として入れ替え戦を見据えて走りだした。長期的には全国で戦うチームになることやインカレ優勝などがあるが、まずは今年、昇格を決めなければ全ての計画が崩れるのである。主将の松坂も「特別な1年間でした」と振り返るように、大体大ラグビー部の今後を占う大事な1年だった。監督、主将共に「試合は厳しい展開になることは想定していた。それでもそこを勝ちきるために1年間やってきたことが出来た」と今シーズン最後の試合でもある入れ替え戦で、1番の試合が出来たことを振り返った。

4年生の想いは後輩たちに届いていた。来年はAリーグで暴れてやると言わんばかりの表情を見せていた後輩達。大事な1年を物にしたラグビー部、新たな歴史を創るべく再び走り出す。



◇終了間際、勝利を決定つけるモールを押し込んだのトライ ◇勝利の瞬間◇大応援団への挨拶の後勝利を喜ぶ選手 ◇監督と主将の熱い抱擁 ◇応援団への挨拶に思わず涙の主将